

矢作川に生息するチャネルキャットフィッシュ（2013年の動向）

平成 25 年 12 月 20 日

豊田市矢作川研究所

山本大輔

1. チャネルキャットフィッシュとは

チャネルキャットフィッシュ（アメリカナマズ）は北米原産のナマズ目魚類で、日本国内では外来生物法に基づく特定外来生物に指定されている。その形態は日本でよく知られるナマズとは異なり、むしろギギに似ている（裏面図 1）。

雑食性で魚（活魚・死魚問わず）、水生・陸生昆虫、藻類など何でも食べ、矢作川ではオトリアユをも襲う。胸びれと背びれにノコギリ状の棘を持ち、漁具を破損させたり、漁業者に怪我を負わせる。オオクチバス・ブルーギルと同様に卵や仔稚魚の保護行動をとるため、繁殖力が高い。一方、日本全国に広がったオオクチバス・ブルーギルと異なり、現在までの侵入域は限定的である。養殖地では、なめばっくん（ハンバーガー：茨城県行方市）、河ふぐ（岐阜県飛騨市周辺）などとして食材に利用されている。

2. 矢作川における 2013 年の調査

（1）情報提供 5 件（うち 2 件で魚体の引き取り）

約 75cm、約 7,000g（裏面図 3）；54cm、約 1,500g（広瀬ヤナ）

他 3 件は他種ナマズとの見間違いだった

（2）採集数

	合計	延縄	釣り	引き取り	その他	その他に含むもの
2013	14	7	5	2	0	
2012	11	10	0	1	0	
2011	9	5	2	0	3	かいぼり、魚道迷入

・この 3 年間では採集数が微増している。

3. これまでに分かってきたこと

- ・2010 年以降、採集数に占める未成魚（全長 40cm 未満）の割合が増加した。
- ・矢作川中流域（百月ダム～明治用水頭首工）で採集される（裏面図 2）。
- ・延縄では 9 月頃の採集努力量あたりの採集数が多い（≒効率が良い）。
- ・混獲（他種ナマズ、ウナギなど）が多い。

4. その他

2012 年までの生息状況を矢作川研究（2014 年 3 月発行予定）に投稿中である。

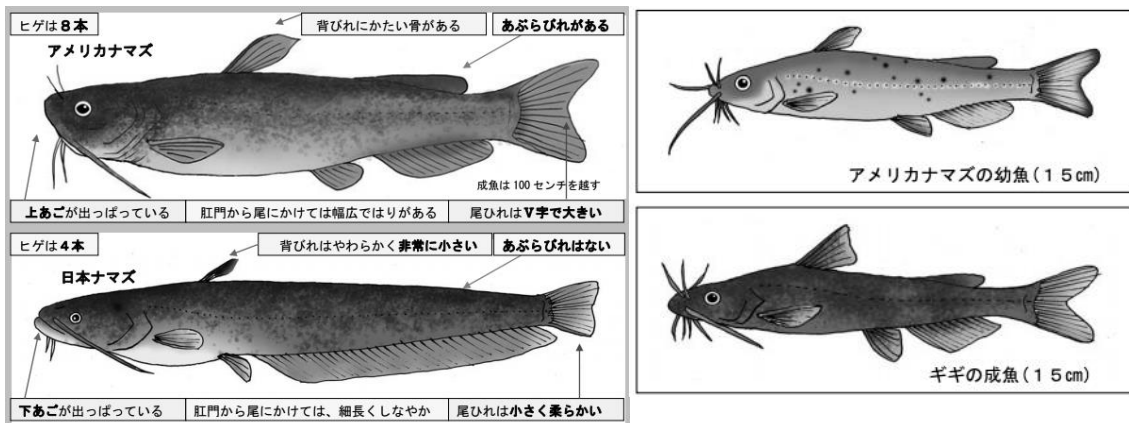


図 1 チャネルキャットフィッシュ、ナマズ、ギギ (矢作川水族館、<http://www.yahagi-aqua.com/>)

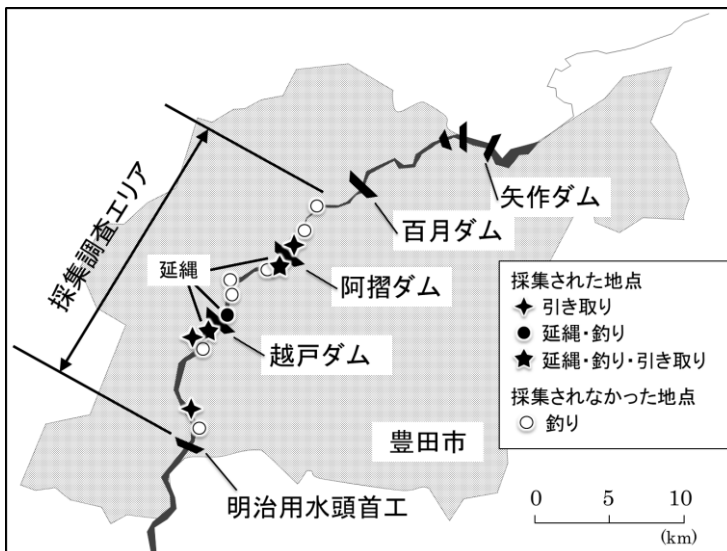


図 2 2012年までの採集地点。
過去には矢作ダム湖、巴川、矢作古川での生息情報も寄せられている。阿摺ダム下流から越戸ダム湖までの約 8km を一晩で遊泳するなど移動性が高く、分布拡大に対しては警戒が必要である。



図 3 引き取り個体 (写真は新見克也氏に提供頂いた)

2013年6月に採集され、詳細は矢作新報に掲載された。

引き取り後、解剖すると発達した卵巣が確認された。胃および消化管に未消化の残存物は確認できなかった。